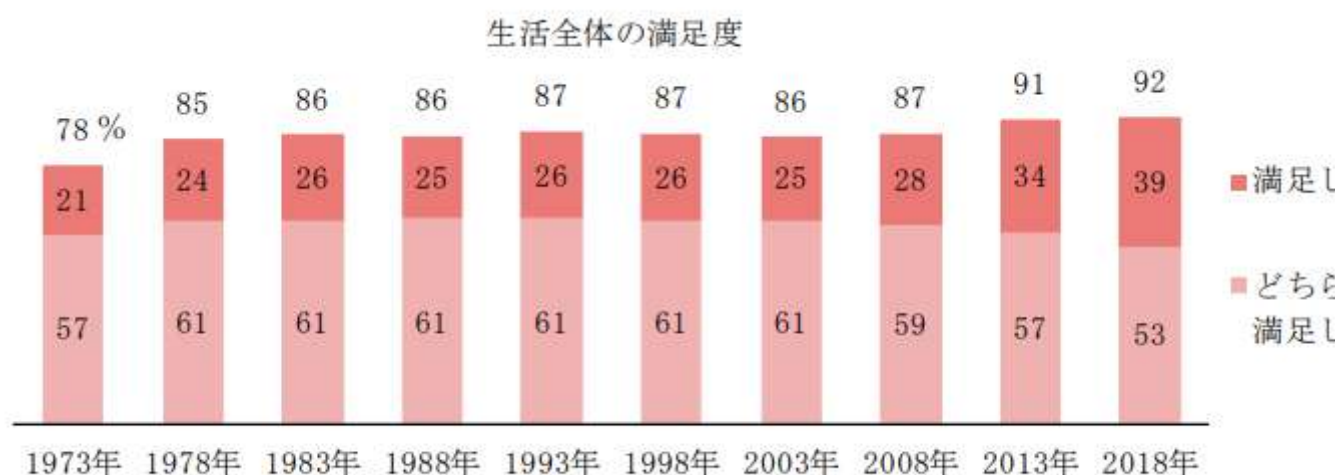


「内向き志向で生活には満足 NHK『日本人の意識調査』結果」

海外で仕事や勉強をしたい、あるいは外国人と友達になりたいと思う日本人が減っているという結果が、NHK放送文化研究所の調査で明らかになった。生活全体の満足度を聞いた設問に対し、「満足している」と答えた人が38.7%、「どちらかといえば満足している」と答えた人も合わせると91.7%と、いずれも1973年の調査開始以来、最も高い数字となったことも示されている。



(NHK放送文化研究所第10回「日本人の意識」調査結果概要から)

7日公表された「日本人の意識調査」は5年ごとに実施されている。今回の調査は昨年6月から7月にかけて、全国から層化無作為二段抽出で選ばれた16歳以上の日本国民2,751人に個人面接し、回答を得た。

外国人と友達になりたくない人38.0%

外国との交流についての設問は、まず「いろいろな国の人と友達になりたい」かどうかを問うている。「そう思う」という回答は58.2%で、前回2013年の調査結果62.9%から4.7ポイント低下、この設問が最初に入った2003年の調査結果65.4%に比べると7.2ポイント低下した。一方、「そうは思わない」人は38.0%。2013年の32.3%、2003年の29.1%のいずれも上回る数字となっており、外国人と友達になりたくない日本人が増え続けていることが分かる。

「貧しい国の人たちへの支援活動に協力してみたい」、「機会があれば、海外で仕事や勉強をしてみたい」という二つの問いに対する回答からも、内向き思考が進んでいることをうか

がわせる数字が示されている。前者では、「そう思う」との回答が 68.1%あったが、2013 年の 75.4%、2003 年の 75.6%より低下した。「そうは思わない」との回答が 26.9%あり、2013 年の 19.0%、2003 年の 16.8%を上回り、貧しい国の人たちへの支援活動に協力したがない日本人が確実に増えていることを示している。

「機会があれば、海外で仕事や勉強をしてみたい」に対しても、「そう思う」は、33.0%にとどまり、こちらも 2013 年の 37.1%、2003 年の 43.0%に比べ、低下は歴然。「そうは思わない」人が 63.5%と、2013 年の 57.9%、2003 年の 51.5%より増えており、海外赴任や海外留学を望まない日本人が増えていることが分かる。

政治活動なし 80.8%

調査には、政治あるいは政治活動に関する意識、行動を聞いた複数の設問が含まれている。デモや署名運動、マスコミへの投書、陳情・抗議・請願、献金・カンパなどさまざまな活動例を挙げて政治活動への関与を尋ねた問いの答えで、「特に何もしなかった」が 80.8%と、1973 年の調査開始以来、初めて 80%を超えたのが目を引く。「デモや陳情、請願は、国の政治にどの程度の影響を及ぼしていると思うか」との問いに対して、「全く影響を及ぼしていない」という回答が 17.1%と調査開始以来、こちらも最高値を示した。

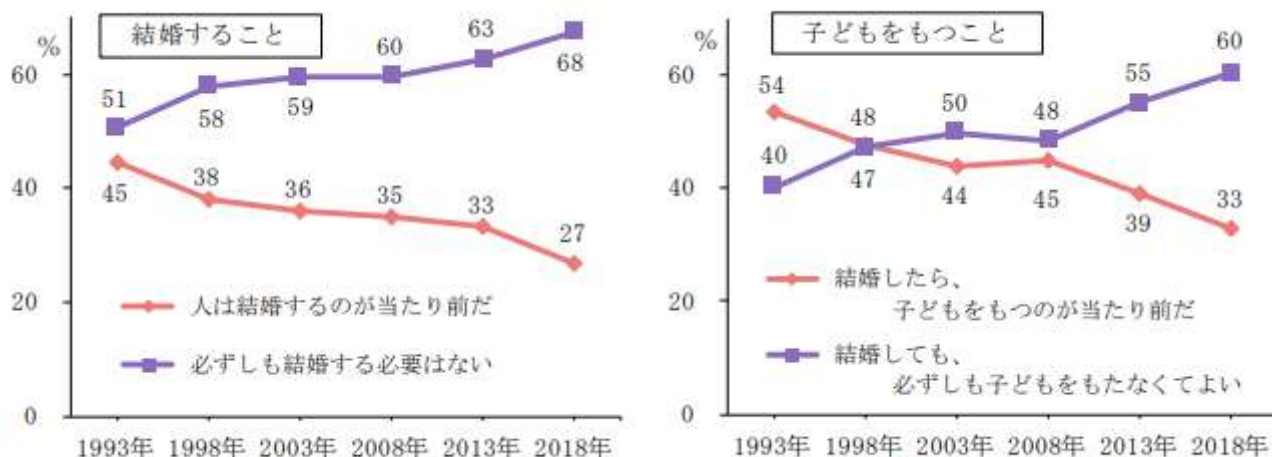
政治に対する冷めた意識が広まっていることをうかがわせるこうした結果が示された一方で、生活面では不満を感じる人が少ない現実を示す結果が見て取れる。生活全体について満足感を尋ねた問いに対し、「不満だ」は 1.2%、「どちらかといえば不満だ」は 6.8%と、いずれも 1973 年の調査開始以来、最小値だった。「満足している」と答えた人が 38.7%と調査開始以来の最高値。この数字に「どちらかといえば満足している」と答えた人 53.0%を合わせると 91.7%となり、こちらも調査開始以来、最も多く、生活全体に満足観を持つ日本人が確実に増えていると見て取れる。

結婚必ずしも必要なしは 68%

今回の調査から、結婚や子供を持つこと、あるいは男女のあり方に対する意識の変化も明らかになった。結婚について「必ずしも必要ない」と考える人は 67.5%に上り、「結婚するのが当たり前」と考える人は 26.9%にとどまる。この設問が最初に調査に取り入れられた 1993 年には、それぞれ 50.5%、44.6%で、前回 2013 年の調査でも 62.6%、33.2%だったから、結婚を必ずしも必要と考えない人が増え続けていることが分かる。

「結婚しても必ずしも子供を持たなくてもよい」と考える人は、60.4%に上り、こちらも

この設問が始まった1993年の調査結果40.2%から増加傾向が変わらない（前回2013年調査では55.2%）。「結婚したら子供を持つのが当たり前」と考える人は32.8%にとどまり、こちらは1993年の53.5%から減少が止まらない（前回2013年調査では38.9%）。少子化対策の難しさを示す結果といえそうだ。



(NHK 放送文化研究所第10回「日本人の意識」調査結果概要から)

結婚後の姓については、夫婦別姓でよいが14.2%と1973年の調査開始以来最高となった。「夫婦どちらの姓でもよい」が32.3%でこちらも調査会以来最高値。「当然、夫の姓を名乗る」は28.8%、「現状では夫の姓」は21.7%といずれも調査開始以来、最も低い数値だった。結婚した女性が職業を持ち続けることについては、「できるだけ持ち続けた方がよい」が59.9%と、1973年の調査開始時の20.3%からの増加傾向をさらに伸ばした(前回2013年は56.3%)。「結婚したら家庭を守ることに専念した方がよい」は調査開始時に35.2%あったのが、調査のたびに減少し続け、今回8.3%と初めて10%を下回った(前回2013年は10.6%)。

男女の家庭での役割に関する設問でも、男女平等であるべきだとの考えが強まっているのを示す結果が出ている。「夫が台所の手伝いや子供のおもりをするのは当然だ」と考える人が89.4%と調査開始以来、最も高い数字となっている。「台所の手伝いや子供のおもりは男のすることではない」という考えは7.6%にとどまり、調査開始以来、最小となった。

日本人の内向き志向については、特に若者にその傾向が見られるという指摘が近年、指摘されている。産業能率大学が新卒採用された18歳から26歳までの新入社員を対象に2017年8、9月に実施した「新入社員のグローバル意識調査」でも、79.5%が日本企業はグローバル化を進めるべきだと考え、一方、「海外で働きたくない」と答えた新入社員が60.4%い

るといふ結果が出ている。

小岩井忠道 JST 客観日本編集部

関連サイト

NHK 放送文化研究所「第 10 回『日本人の意識』調査（2018）結果の概要」

https://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/pdf/20190107_1.pdf

産業能率大学「第 7 回新入社員のグローバル意識調査」

<http://www.sanno.ac.jp/research/global2017.html>